

## ベナン月例報告（2014年1月）

### 1. 内政

- ・ 2日、社会保障公庫（CNSS : Caisse Nationale de Sécurité Sociale）のアリ・エリマ（M.Auguste ALI YERIMA）総裁が不適切な運営を理由に解任された。
- ・ 6日、労働組合連合幹部は、客月27日の当局による強制的デモ中止に抗議し、7日より48時間のストライキを敢行する旨決定した。労働組合側は、27日に要求する予定であった事項に加え、デモ中止及び治安部隊発動の決定を下した（M.Placide AZANDE）アトランティック・リトラル（Atlantique-Littoral）県知事の解任を求めている。
- ・ 7日、政府は、アビオラ（M.Francois Adebayo ABIOLA）高等教育・科学研究担当国務大臣を通して、ORTB番組上で労働組合側を激しく批判した。
- ・ 9日、政府は、今年度キャンペーンを正常に操業させるため、綿花開発公社（SODECO:Société de Développement de Coton）の綿繰り工場を今年度のみ徴用する旨決定した。
- ・ 13日、スントン（M.Martial SOUNTON）労働・公職・行政及び機構改革・社会対話担当大臣は、労働組合幹部を召致し、ストライキ中止の説得を試みたものの、交渉は決裂。労働組合側は、15日から48時間のデモを敢行した。
- ・ 15日、アフリカ・マダガスカル航空安全局（ASECNA）の労働組合が労働環境改善を求めて24時間のストライキを敢行し、コトヌ空港が閉鎖された。
- ・ 16日、再度スントン労働・公職・行政及び機構改革・社会対話担当大臣は、労働組合局を訪問し、ストライキ中止の説得を試みたものの、交渉は決裂。
- ・ 同日、国民議会は、激しい討議の後、客月31日に大統領令により発効された予算案を承認した。
- ・ 17日、ASECNA労働組合は、総会を開き、ストライキの2週間の中止を発表した。この間に交渉が進捗しなければ、2月初旬に再度ストライキに入る由。
- ・ 18日、政府は、ストライキ参加者の1月分の給料につき、ストライキ参加日数分を天引く旨発表した。
- ・ 21日、労働組合側は、同日より72時間のストライキを敢行した。
- ・ 24日、大統領は労働組合幹部の召致を試みたが、労働組合側は、召致が急であるとして話し合いを延期するよう大統領に求めた。
- ・ 25日、ヤイ大統領は、若年者200人と失業問題及び開発問題等についての意見交換会を実施した。
- ・ 26日、労働組合側は、28日より引き続きストライキを行う旨決定した。

### 2. 外政

- ・ 7日, 外交団がヤイ大統領に新年の挨拶を行った。
- ・ 11日, 反政府勢力セレカによる暴力が激化している中央アフリカにおいて, 10日に大統領職を退いたジョトディア (M.Michel DJOTODIA) 前大統領が, ンジャメナを経由してベナンに到着した。同前大統領は, 現在, アボメ・カラヴィ市内ゾカ (Zocar) 地区で居住している。
- ・ 20日から22日, 日本の日 AU 友好議連の幹事で, 法務副大臣でもある奥野信亮氏がベナンを訪問した。同氏は, ヤイ大統領やナゴ (M.Mathurin NAGO) 国民議会議長の政府要人と会談した他, コトヌ自治港や IFE 等を視察した。

### 3. 経済

- ・ 1日, アジャボン (M.Sebastien AJAVON) ベナン経団連会長は新年の挨拶を行い, ベナン経済のフォーマル化の必要性を訴えた。
- ・ 5日, 約3年間続いた内紛のため遅々として進まなかったベナン商工会議所評議員選挙が実施され, 84人の商工会議所評議員が選出された。
- ・ 23日, アマドゥ・ジブリ (Mme Fatouma AMADOU DJIBRIL) 農業・畜産・漁業大臣が国民議会において, 近年の綿花生産の不調に関する説明を行った。国民議会議員からは, 政府の対応が不十分である旨訴えられた。
- ・ 25日, 評議員選挙に引き続き, 会頭選挙が実施され, 農畜産物加工会社を経営するサチビ (M.Jean-Baptiste SATCHVI) 氏が会頭に就任した。

### 4. 開発・協力

- ・ 8日, 中国が井戸100基を建設し, タオ (M.Weiguang TAO) 駐ベナン中国大使及びカサ (M.Barthélémy Dahoga KASSA) エネルギー・石油鉱山探査・水利・再生可能エネルギー開発大臣が引渡式を実施した。
- ・ 16日, イランがベナンに車両を4台供与し, アリバクシ (M.Hassan ALIBKHSI) イラン特命全権大使, バコ (M.Nassirou BAKO-ARIFARI) 外務・アフリカ統合・仏語圏・在外ベナン人大臣及び高等教育・科学研究担当国务大臣出席の下, 引渡式が実施された。
- ・ 22日, USAID が「恵まれない子ども及び若年者のための教育プログラム」を開始し, オープニング・セレモニーが実施された。同プロジェクトの事業費は, 約7億 FCFA に上り, ベナン全土に12の教育センターが建設される。かかる教育センターでは, 45万人の児童及び若年者に教育を提供する。
- ・ 22日, 市民社会団体ソーシャル・ウォッチ・ベナンが, 「ベナンにおける市民教育, 性的暴力及び強制的結婚」に関するワークショップを開催した。同団体のアサー (M.Gustave ASSAH) 代表は, かかる問題がベナンにおいて深刻な問題であり, 同団体がオックスファムと共同で同プロジェクトに取り組んでいる旨説明した。

- ・ 28日、保健省が、ロコサ（Lokossa）においてベナンにおける帝王切開無償化プロジェクトの評価を行うため、ワークショップを開催した。同ワークショップでは、同制度が2009年に導入されてから、4年間で約10万人の妊婦が帝王切開手術を受けたことが報告され、同制度がベナンの母子保健改善に果たす役割が再確認された。
- ・ 30日、ベナンとナイジェリアの物流を促進するため、ベナンのジレベ（Djègbé）とナイジェリアのオウォデ（Owodé）を結ぶ全長9,686kmの道路整備工事が開始し、ヤイ大統領及び西アフリカ開発銀行（BOAD）のアドヴェランデ（M.Christian ADOVERANDE）総裁がオープニング・セレモニーを実施した。

## 5. 社会

- ・ 12月31日、ベナンにおける拘置所の生活改善を目的として、新たに10件の拘置所が建設されている件につき、アボメイ・カラヴィ（Abomey-Calavi）の拘置所が新たに開所した。
- ・ 3日、ダッサ・ズメ（Dassa-Zoumé）で大規模な火災が発生し、100人以上が非難した。
- ・ 27日、ジュグ（Djougou）において、遊牧民プル（Peulhs）族と地元農民の間で衝突が発生した。死者は出なかったものの、多大な物的損害が生じた。かかる衝突は、プル族の一人が同人の家畜が殺されていることを発見したことに端を発するが、地元住民は、以前より、プル族が飼育する家畜により畑が荒らされているとして、プル族に対し村を出て行くよう求めていた由。

## 6. 治安

- ・ 18日、ポルトノボ近郊ジェレベ（Djèbè）において、違法ガソリンの取締りを巡って、治安部隊と住民が衝突し、一人が死亡、数人が負傷者した。
- ・ 27日、偽札製造の容疑でカメルーン人の男が逮捕された。
- ・ 24日から25日、ゴグヌ（Gogounou）及びバニコアラ（Banikoala）で自動車事故が発生し、複数の死者及び重傷者が出た。